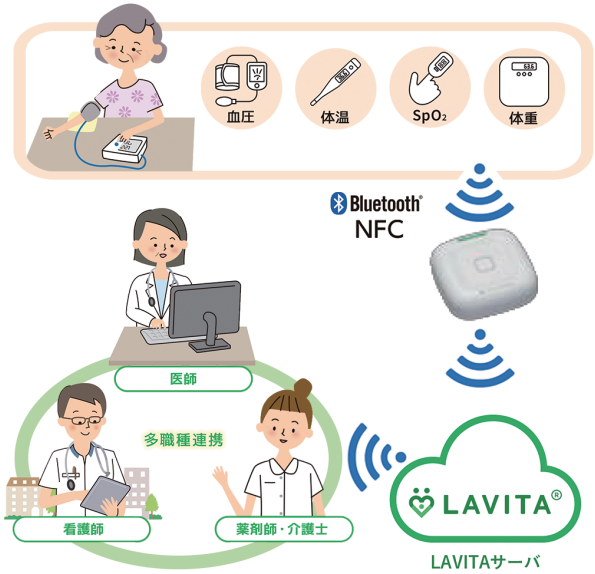
医療介護ネットワークシステム LAVITA®



LAVITA® は、在宅医療・介護のICT化に対応した、クラウド型ネットワークシステムです。患者さんのご自宅で測定した血圧や体温、SpO_2（動脈血酸素飽和度）、体重などのバイタルデータをBluetoothやNFC※、Wi-Fi通信機能によって簡便に収集、クラウドへ自動送信し、かかりつけ医や看護師、ケアマネージャーなど、在宅医療・介護に関わる様々な職種の方が「知りたいとき」「伝えたいとき」にリアルタイムで情報共有できます。患者さんのご自宅から離れた場所で患者さんの体調を見守り、変化があれば共有情報を元に医療・介護の分野をまたいだ専門家同士の連携が可能です。

LAVITA® は、疾病予防から遠隔診療など幅広くサポートできる機能の搭載を予定しており、引き続きICTの活用による在宅医療の充実と医療業務の効率化に貢献していきます。

※NFC：Near Field Communication。近距離無線通信規格。

使う人に、やさしいホルター心電計 長時間心電図記録器 RAC-5000シリーズ

ホルター心電計は、日常生活中の24時間以上の連続した心電図を記録して、病院での数分の検査では捉えきれない不整脈を捕捉します。

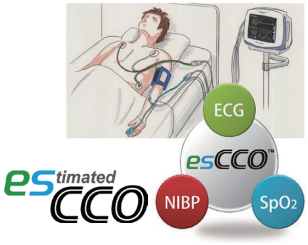
長時間心電図記録器 RAC-5000シリーズは、軽量・コンパクトで、日常的な入浴ができる※ホルターレコーダです。患者さんは普段と変わらない生活を過ごしながら検査ができます。臨床検査技師や医師のユーザビリティにもこだわっており、タブレットやパソコンにBluetooth通信で接続し、心電図波形を大きく鮮明な表示で確認できます。また、本装置と同時に発売した「仮貼り可能」ディスポ電極では、各電極上に装着位置を色別で分かりやすく表記し、心電図波形を確認しながら電極を貼り替えることができます。

※最大45℃のお湯に30分間入浴可能。

ブラジルトップ病院で生体情報モニタ商談を受注

2012年に設立した日本光電ブラジルでは、当期から重要拠点病院への直接販売体制を強化しました。当社の独自技術であるesCCO※を直接アピールしたことにより、ブラジルのサンパウロ大学Incor病院から高く評価され、手術室・ICU商談を受注することができました。当病院は、循環器分野においてブラジルトップの病院であり、今後の波及効果が期待されます。

当社は、3ヵ年中期経営計画「TRANSFORM 2020」において、拡大する新興国市場の医療ニーズに応えるため、戦略的な事業展開に取り組んでいます。今後も、当該地域の特性に合わせた販売・サービス活動をより一層強化し、中南米市場におけるプレゼンスの確立を目指します。



※esCCO：
estimated Continuous Cardiac Output。
心電図とSpO_2から非侵襲で連続的に心拍出量を算出。

米国で11年連続顧客満足度No.1を獲得

11年連続
顧客満足度
No.1

47四半期連続で
顧客満足度No.1を獲得

2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017

生体情報モニタ
米国の医療機関に対して、第三者評価会社が実施した調査結果（10点満点）

1位 日本光電 9.7点

（2018年Q1 テレメトリに関するMD Buyline 調査。対象企業数6）

米国現地法人である日本光電アメリカは、米国の市場調査会社MD Buyline社が実施している生体情報モニタの顧客満足度調査において、11年連続トップを獲得しました。

同社は四半期ごとに米国各地の病院の技術者や臨床医を対象に調査を実施しています。当社の生体情報モニタの機能や信頼性、製品トレーニング、迅速なサービスについて高い評価を得ました。

日本光電の製品は世界120カ国以上に輸出し、世界各国の医療現場でお使いいただいています。今後も世界中のお客様に高品質な製品・サービスを提供し続け、トップクオリティとしてお客様に認められるよう、グループ全部門で社員一人ひとりが品質向上に取り組みます。